

合唱コンクールにむけて

6月14日(月)の朝、いくつかのクラスから歌声が聞こえてきました。約1ヶ月後の7月16日(金)に遺愛アリーナで行われる校内合唱コンクールにむけての練習が今年も始まりました。

遺愛では各クラスが課題曲と自由曲を歌い、学年別に金賞・銀賞・銅賞を競います。課題曲は、中1・高1は校歌、他の学年は讃美歌が課題曲になります。そのおかげで、遺愛の生徒は校歌は歌詞を見ないでしっかりと歌えますし、讃美歌も何曲かはハモリながら歌えるようになって卒業していきます。ちなみにハレルヤコーラスもソプラノ、メゾ、アルトの3部とも卒業時には全員、しっかりと歌えるようになります。

この時期は、昼休みや放課後、廊下を歩く生徒達が自然と讃美歌や自由曲を口ずさんでいます。その美しいハーモニーが校長室に聞こえてくる時は、本当に至福のひと時です。

約30年前の新任の頃を思い出します。当時、合唱コンクールは9月に行われていましたが、高3の合唱は各クラスとも本当に素晴らしく甲乙つけがたいものがありました。優勝は、『エトピリカ』を歌ったクラスで課題曲も含めた総合力で金賞を受賞しました。惜しくも2位になったのは『美しき青きドナウ』をドイツ語で歌ったクラスでした。ドイツ語ができる(自学自習していたようです。)生徒が自力でウイーン合唱団にドイツ語で手紙を書き、楽譜を送ってもらい、それで数ヶ月練習してきた合唱でした。合唱が終わったときには感動で鳥肌がたちました。課題曲が物足りないということでも総合では銀賞でしたが、自由曲は本当に素晴らしい演奏でした。

毎年、素晴らしい演奏が聴ける遺愛の合唱コンクール、今年はどうのような演奏が創り上げられるか、今からワクワクしています。

6月18日(金)

